

家族を捨てた少年

黒川エレン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

家族から逃げた少年のお話

たった1度のC i R C L Eのライブで未来が変わると思わなかった。

・この作品は作者の妄想全開の作品です。

所々キヤラ崩壊があるかもしれません。 m () m

目次

8話	7話	6話	5話	4話	3話	2話	SPIRITの設定	1話	序章
30	27	23	21	16	12	9	6	3	1

序章

主人公設定

旧名（山吹 透也）0〜13歳

山吹沙綾の双子の弟で年齢は同じ年 元々家族の手伝いもする元
気ある普通の子でギターが出来ていた。 反抗期に入ってから手
伝いもしなくなり中学2年生の時に母が倒れてから隠れてお金を稼
いでいた。

序章

透也「俺大きくなったらお父さんのパン屋さんで働くー！」

俺は幼稚園の頃からパンが大好きだった。お父さんとお母さんの
焼くパンが美味しくて、毎日小学校から帰ってくると姉と仲良く食べ
ていた。お店の手伝いも良くやっていた。

しかし中学生になってから俺は俗に言う反抗期になっていった。
家の手伝いをせず友達とライブハウスで楽器に明け暮れていた。

中学1年生の終わりの季節に母が倒れた。原因は疲労だった、こ
の時の自分の変な意地を張って隠れてお金を貯め始めた。1回10
00円で行われる刺され屋という方法で……。始めは辛かったが
段々と慣れていく自分が恐ろしかった。この刺され屋の稼ぎを初め
てからとにかく腕が痛かった。ギターもその時に辞めた。しかし中
学2年生のある日に家族にバレる時が来てしまった…

沙 コンコン「透也ご飯出来たよ。・あれ寝てるのかな？透也入
るよ〜 ガチャ 相変わらず綺麗に整頓されてるね。 透也起き
て！ご飯だよ！」

布団を剥がすとそこには両腕に包帯を巻いてる透也が寝ていた。
しかもタイミングの悪いことにその時に透也が起きたのだ。

透「あつ」

沙「そ、その腕どうしたの？」

透「関係ない。」スタスタ

沙「待って!!」ガシツ

透「イタツ」

腕を掴まれて顔をしかめてしまった。

沙「本当にどうしたの？関係ないとかじゃなくて心配だよ…」

透「だから関係ナ『いい加減にして！』ッ、」

沙「いいから見せて！ ガバツ な、何これ…。詳しく話して！」

透「金稼ぐために刺され屋になった。それだけだよ。」

次に飛んできた姉からの一言で俺の人生は大きく変わった。

沙「なんで自分の体を大切にしないの！そんなの…。そんな奴家族じゃないよ!!」

バチーン 鈍い音が響いた

右頬が痛い。姉が激しく怒っている。初めて見るかもしれない。親のために金を貯めていてまた家族で楽しく笑い合えると思っていた。しかし自分の不注意で見られてしまった。切り傷と刺し傷によつて変色した腕を…。

俺は姉の一言を言われ部屋にこもった。ただただ悲しかった。大好きな姉に家族じゃないと言われ

外から姉が謝りに来ているが出る気にはならず夜中になると愛用のギターと今まで貯めた金を持って家出をした。

1話

現名（黒川 翔） 13→15歳↑現在

家出をしてから偶然芸能事務所の社長に拾われた透也はそのまま芸能事務所に所属 事務所で知り合ったメンバーでバンド（SPIRIT）を組んでいる。黒川は狐の面を付けてギター担当をしています。

1話

久しぶりに山吹家の頃の夢をみた。

翔「最悪の目覚めだな…」

黒川翔は呟いた。

家を飛び出した後俺とはある芸能事務所の社長に偶然出会い気に入られてそのままお世話になっている。山吹家は自分の申し出により家族を脱退した。恐らく市役所から通知が行って喜んでるか悲しんでるかわからないけれど、今の俺からすればどうでも良いことだ。バンド活動をするにあたって学校もそのまま辞めることにした。今の自分は事務所の一室を借りてそこで寝泊まりしている。

あ「翔ー！起きてる!？」

翔「朝っぱらからうるせーよ あおい」

あ「ごめんって〜♪」ニコニコ

こいつは同じ事務所で同じバンドの仲間の霧矢あおいだ。担当はキーボード 同時期にこの事務所に来ており最初に仲が良くなったのがあおいだ。

翔「てかあおい何で来たんだ？曲合わせは昼過ぎからだろ？」

あ「はあく もうお昼すぎてるよ…」

翔「えっ…。」

時計は13時半を示していた。

あ「早く着替えて来てよ〜」

翔「（ωーゞラジャ）☆」

こうしていつもと同じ感じの1日が始まった。

私がSPIRITの専用のレッスンスタジオに入ると美月さんが話しかけてきた。

美「どうだった？翔起きてた？」

あ「ちよūdど起きた所みたいでしたよ。」

み「待ったく翔の寝起きの悪さは相変わらずだね〜」

あ「みくるさんも美月さんに起こしてもらってましたよね…」

今話しかけてくれたのは神崎 美月さんと夏樹 みくるさん

美月さんとみくるさんは私の1歳歳上で美月さんがVO&ギター

みくるさんはVO&ベースであと1人メンバーが ガチャ

直「やつほーみんな揃ってる〜？」あと1人のメンバーがきたわ。

あと1人のメンバーは今入ってきた涼川 直人 私や翔と同じ年

でドラム担当 このSPIRITのリーダーでもある。

美「まだ翔が来てないわ。」

直「翔の奴またか」

あ「多分すぐ来るよ。」

み「そう言つて1時間ぐらいこない ガチャ 『悪い 遅れた！』

来ちやたね。」

直「よし今日はミーティングしてから練習するぞ。」

あ「なんの話をするの？」

み「ライブの話してみたいだよ！超テンション上がる！」

直「ああ ライブハウスCIRCLEのまりなさんから出演依頼を

もらったけどどうする？」

み「出ようよ〜最近ライブ出来てないから、久しぶりにみんなで

パーつて演奏しようよ〜」

美「私も賛成よ。」

翔「まあたまには、こういうのもいいよな。」

あ「私も出たいな〜」

直「ならまりなさんに出れるよに言っておくよ。多分社長は1発で

許してくれるから大丈夫でしょ。とりあえず俺は連絡してくるから

セットリスト考えといてくれ。」

あ「美月さん！楽しみですね！」

美「そうね、最近はみくるとモデルの仕事がメインになってたから久しぶりにみんなでライブするのがたのしみだわ。」

翔「それで何をやろうか？」

み「笑顔のSun Catchをやりたい！」

あ「私はフレンドがやりたいです！」

この後セットリストが決まりみんなで曲合わせを始めた。

——2時間後——

み「あーこんな続けてベース弾いたの久しぶりで背中がゴリゴリなるよー」

翔「基礎練ばっかやってたから通しはきついわ。」

直「まあライブは2週間後だからゆっくりやってこうぜ。」

SPIRITの設定

黒川翔（山吹透也）

身長・167cm

血液型・B型

誕生日・5月19日

星座・牡牛座

好きな食べ物・辛いもの 羽沢珈琲店の珈琲

特技・ギターの早弾き カラオケ

イメージカラー 紫

一人称・俺

今回の主人公で言動は不良っぽいが本人は特に意識しておらず。とても話やすい雰囲気は出しているが基本社長とバンドメンバーしか信用しておらず

神崎美月

身長・165cm

血液型・A型

誕生日・9月18日

星座・おとめ座

好きな食べ物・マロングラッセ 香りの良い紅茶

特技・歌 ギター

イメージカラー・レッド（マゼンタに近い）

一人称・私

性格は冷静沈着でとても大人びており、きちんとしたプロ意識を持っている。しかし、ツアーライブの際は宿泊先で枕投げに赤面しながら参加したがる素振りを見せるなど、歳相応の少女らしい一面を見せることも

夏樹みくる

身長・163cm

血液型・O型

誕生日・7月7日

星座・かに座

好きな食べ物・アイスクリーム ソーダ

特技・ガーデニング 洋服のリメイク サーフイン ベース

一人称 私

元々は実家である海沿いのガーデニングショップでアルバイトを
しており、バンド活動には縁がなかったが、「新しいバンドを生み出し
たい」という美月によつて才能を見出され、バンド『SPIRIT』の
メンバーになる。

霧矢あおい

身長・157cm

血液型・A型

誕生日・1月31日

星座・みずがめ座

好きな食べ物・サンドイッチ

特技・一目見たアイドルは忘れない キーボード

イメージカラー・ブルー

一人称・私

幼少の頃から様々な習い事をしており、さらに並外れた運動能力を
持つという知識だけでなく実力も十分に兼ね備えた万能少女。

涼川 直人

身長 169cm

血液型 O型

誕生日 11月13日

星座 さそり座

好きな食べ物 ジャンクフード

特技 空手 ドラム

一人称 俺

仕事の選り好みこそするものの、老人ホームでのライブでは演歌調

の前口上を行い、幼稚園でのライブでは歌のお兄さんをきっちり演じる等、一度引き受けた仕事はなんだかんだきちんとやり通すプロ精神を持ち合わせている。ライブでは予定していた曲を突然変更する事も多いが、ちゃんと場の空気や客の反応を見てからのサプライズとして行っており、言動に反して思慮深い面もある。

SPIRIT（スピリット）

本作の主人公が所属するバンドで過去に「FUTURE WORLD FES.」で優勝経験がありそのおかげでかなり有名になった。ツアーなどもしていたものの今は個人の仕事が多く来ており神崎美月と夏樹みくるは主にモデル 霧矢あおいは女優 涼川直人はバラエティー番組 黒川翔は曲作りや後輩達の指導を主にやっている。

2話

練習後

翔「あー疲れた もう指が動かねー」

み「でもみんな久しぶりにしては完成度は高いよねー」

美「多分みんなバンドの練習がなくなるとも個人練習はしっかりやってたおかげのようね。」

翔「ちよつと気分転換に散歩してくるわ。」スタスタ

あ「あつ 待ってー私も行く！」タツタツ

美「行っちゃったわね…」

直「本当にあの二人は仲がいいよな。 幼なじみみたいだな。俺も部屋に戻って寝るかね。」

み「美月く私達も息抜きに2階のカフェいこうよ」

美「いいわね。久しぶりに行きましようか。」

み「やった！決まりだね！」

あおいと事務所の階段を降りてると、遠くの会議室から5人の少女が出てきた。アイドル研修生の丸山彩と女優の白鷺千聖 モデルの若宮イブ スタジオミュージシャンの大和麻弥 あと一人は初めてみた。

なにかの集まりかと思いつつ階段を降りていくと、

あ「ねえ？どこに行く？私は羽沢珈琲店がいいんだけど、翔はどこがいい？」

羽沢珈琲店の珈琲は美味しい看板娘の羽沢つぐみちゃんは可愛い。しかしこの珈琲を飲むには難関がある。珈琲店の位置が山吹ベーカーリーつまり俺の元家の近くにある事だ。恐らく今の時間だと学校の帰宅時間と重ならないはずだから大丈夫だと思う。

翔「OK 羽沢珈琲にしようか。久しぶりにチーズケーキ食べたいし、つぐみちゃんにも会いた（ジーツ）…。そんなに睨むなってやましい気持ちはないからな。」ナデナデ

頭を撫でたら秒で大人しくなるあたりは素直だよな。

俺はルンルン気分のあおいと変装して羽沢珈琲店に向かった。

歩いて向かう途中に少し広い公園がありそのベンチで猫耳型の髪型が特徴的や花咲川女子学園高校の制服を着た女の子がギターを弾いていた。

翔「うわっ あの子ランダムスター持ってるよ。」

あ「ランダムスターって？」

翔「あれはエレキギターで形のインパクトが強いから使う人は変態って言われるから持つ人が少ない珍しい奴だよ」

あ「ふくん じゃああの子は変態なんだね！」

そんな感じの会話をしながら羽沢珈琲店に向かった。

翔達を通った20分後

香「ふんふくん やっぱりギター楽しいな〜1人で弾くのもいいけどみんなで弾きたいな〜早くみんな来ないか？」ジャラーン

沙「香澄ー お待たせ〜」

り「香澄ちゃん待った？」

香「あっ！沙綾〜 りみりん〜大丈夫だよっ！あとはおたえと有咲だけだね！」

沙「おっ 噂をすれば…」

入り口の方からおたえと有咲が来た。

有「悪い少し遅れた。」

り「なにかあったの？」

お「うん、有咲がおっちゃん達の部屋で一緒に寝たいっていうから私が『そんな事言ってねえだろ！』」

沙「あはは、なんとなく分かったよ。おっちゃん達可愛いもんね。」

有「沙綾も乗んなくていいからさっさとCIRCLE行くぞ！」
タスタ

香「あ〜 有咲待ってー」

poppin partyはいつも通りに平常運転だった。

C i R C L E に着いた p o p p i n p a r t y

まりなさん「みんないらつしやい！」

香「まりなさんこんにちわー！」

まりなさん「あつそうだ　今度のC i R C L Eのライブで募集して最後の1組がさつき決まったよ！」

香「えー　なんてバンドですか?！」

まりなさん「S P I R I Tというアイドルバンドだよ。そこにポスターが貼ってあるでしょ。多分みんな有名人だから見たら分かると思っよう！」

香「あつこの仮面の人見たことある！」

有「みくるさんがいるバンドじゃねえか。」

り「有咲ちゃん知り合いのひと?」

有「ああ　みくるさんはガーデニングが得意な人でジャンルは違っけど良く盆栽の相談とかしてるんだ。」

お「このバンド　前にS P A C Eで見たことあるよ。」

沙「良くテレビとかに出てるよね。あれ、このお面をつけてる人のギター。。。どこかで見たことあるような。。。」

しっかり見たことはなかったので気づかなかったが私はこのギターを見たことあるような気がした。

香「沙綾くどうしたの?」

沙「えっ　大した事じゃないよ。このギターどっかで見たことあるような気がしてるんだよね。」

有「そりやよくテレビに出てる人達が持つてるギターだから見たことあるだろ。」

沙「あはは、そうだよね。。。それより早く練習しよー！」

香「そうだ練習！早くみんなでキラキラドキドキしたいなあ〜」
まりなさん「頑張ってね！」

3話

2階のカフェで

練習の終わりにみくるとカフェに来て紅茶とマロングラッセを楽しんでいたらみくるがふと

み「ねえ美月。この後って仕事ないよね？」

美「ええ 今日はお仕事も練習もないわよ。」

み「実はね、事務所から新しいアイドルバンドが出るみたいなんだよね！この後少しみにいかない？バンドのメンバーの中にイブちゃんもいるみたいだし！」

美「そうね 見てから帰るのもいいわね。新しいアイドルバンドにも興味あるからそうしましうか。」

そう言って私とみくるはカフェを後にした。

レッスンスタジオ前

美「みくるこのスタジオで合ってるかしら？」

み「うん、スタッフさんに聞いた場所だところになるよ。」

美「それにしてもかなり静かね。」

このスタジオからは楽器の音が全く聞こえずとてもバンド練習をしているとは思えない。

み「確かにね、まあ開けてみれば分かるでしょ 失礼しまーす！

ガチャ あれ？」

美「こら みくるそんな突然入ったら…」

み「彩ちゃんーん！久しぶりだね！」

彩「ひやっう！ びっくりしたよ、みくるちゃん」

美「久しぶりね彩ちゃん。」

彩「美月ちゃんも久しぶりだね。」

み「彩ちゃんここでバンド練習じゃないの？なんで彩ちゃんひとりなの？」

彩「実はみんな用事があって私だけになっちゃったんだよ。」ウルウル

美「なら少しだけギターとベースと彩ちゃんやって見ましよう。」

楽譜があれば弾けるから彩ちゃんの練習に手伝ってあげるわ。」

彩「ううゝありがとう美月ちゃん みくるちゃん。」

こうしてギターとベースで合わせながら彩ちゃんに歌のコツを教えて時間は過ぎてった。

羽沢珈琲店につくと看板娘の羽沢つぐみちゃんが接客をしてくれた。

つ「いらつしやいませ！」

元気な声で

あ「やつほー つぐちゃんおじゃまします。」

つ「あつ、あおいさんとマネージャーさんお久しぶりです！」

実は俺は顔バレを防ぐためあおいのマネージャーであると伝えてある。

翔「どうもつぐみちゃん 珈琲2つとチーズケーキとサンドイッチを1つずつお願いします。」

つ「かしこまりましたっ！少々お待ちください！」スタスタ

あ「いやー ここの珈琲飲むの久しぶりだよ。最近練習やら舞台やらで忙しくて来れなかったから新しい映画『いけない警視総監』の前にいいリフレッシュになるよー」

翔「ほんと凄いやな、昼ドラだった『いけない刑事』が今じゃ警視総監にまでなつてその主役があおいだからな」

あ「急に褒めないでよおゝ恥ずかしいじゃん」

つ「お待たせしましたゝ珈琲2つとチーズケーキ サンドイッチです。」

この後俺とあおいはつぐみちゃんと3人でお茶をした。

2時間後・

お会計時

あ「ごめんね なんか結構な時間居ちゃったね。」

つ「大丈夫ですよ！私もお二人とお話出来てとても楽しかったですから！」

翔「そう言つて貰えると嬉しいよ。じゃああおい行こうか。」

あ「うん、じゃあねつぐみちゃん！」
つ「ありがとうございます！」

羽沢珈琲店を出たあと

あ「私山吹ベーカーリーでパン買って来るから少し待っててくれる？
さすがに入りづらいでしょ？」

翔「ああ少し離れた所で待ってるよ。早めに頼むな。」

あ「うん、ありがとうございます！」 タツタツ ガチャ カランカラン

純「いらつしやいませー あつ！あおい姉さんお久しぶりです！」

あ「久しぶりだね。純君また背伸びたんじゃない？」

この子は山吹家の現長男で私のファンでいてくれる山吹 純 最
近かなりの成長期で顔が少し翔に似てきている。

純「やったー！あおい姉さんに褒められた！お母さーん！」 ダツ
ダツ

あ「ありやー 行っちゃったか。でも元気なのはいい事だもんね
〜」

独り言を言つてパンを選んでいると奥から山吹母が出てきた。

母「あら あおいちゃんいらつしやい。久しぶりね〜」

あ「お久しぶりです！最近お体の方は大丈夫ですか？」

母「ええ子供達の手伝つてくれるから調子は大丈夫よ。」

あ「いいお子さん達ですね！よし今日はこれください！」

私は食パン一斤とメロンパン カレーパンを買う事にした。

母「はい いつもありがとうございますね。純もあおいちゃんが来てくれると
元気が出るって言ってるからこれからもよろしくね。」

あ「いいえ 私もこのパンと純君の明るさに元気をもらってるの
でこちらこそよろしくお願いしますね。」 ガチャ カラン

山吹母には悪いと思ってるけど翔のことは内緒にしておくしかな
いんだよね…。

あ「お待たせ〜」 タツタツ

翔「やつと来たな。ほら早く行くぞここに長居してたらいつ知り合
いに遭遇するか分かったもんじゃないからな。」

あ「はいはい ほらカレーパンあげるから食べながら行こ。」
翔「珍しく気が利くな。」

あ「珍しくは余計ですうー ほら早く行くんでしょ行こ！」
こうして気分転換を終えた私と翔は事務所に戻っていった。

4話 パン

今日は憂鬱な気分です専用のスタジオに向かう

直「さあ今日は事務所の周りの商店街を散歩しようの撮影日だ。回る店は決まってるからその通りにな。」

美「本当にいいの？この手順だと途中山吹ベーカリーによることになってるけど翔はきついんじゃないかしら？」

翔「あー 多分大丈夫かなと とりあえず仮面を付けてあまり喋らないようにしとくから。あまり気は乗らないけど仕事だからな。」

あ「まあトークなら私やみくるさん 美月さんに任せときなさい！」

本当に事情を知ってるメンバーには助けられてると感じるな…今度お返しをしなくちゃな

み「多分撮影するのは昼間だから普通の学校の子は居ないと思うよ。 私は翔の姉さん見てみたかったけどね。」

翔「今度美月と行ってくればいいさ。」

直「そろそろ迎えが来るから行こうか。」

内心は心臓バクバクや

2時間後

スタツフ「では撮影開始するのでよろしくお願いします！」

俺達は花咲川の街を散策して行った。

そしてついに山吹ベーカリーについた。

あ「翔大丈夫？」

み「無理だけはしないでね？」

バンドのメンバーが心配をしてくれてる。

翔「ああ 大丈夫だ。 行こうか。」

美「じゃあ入るわよ。」カランカラン

そこに居たのはまさかの…。

沙「いらつしやいませ！ 山吹ベーカリーへようこそ！」

翔「マジカ…。 ナンデ…。」

おかしいこの時間は学校のはず…。

あ「あつ… どーもSPIRITです。本日はよろしくお願います！」

沙「いえいえ こちらこそよろしくお願います。」

美「じゃあ自己紹介をお願いします。」

沙「はい！ えーこの山吹ベーカリーでお手伝いしてる山吹沙綾です。いつもはこの時間は学校があるんですが、本日は開校記念日なものでお休みなんですよ。」

最悪だ…。 そんな偶然いらないつてとりあえず大人しくしてるしかないな。

み「えーと 沙綾ちゃん！おすすめはなんですか？」

沙「こちらのちぎりパンになりますね！量もあつて分けやすいので、私も良く弟達と食べてます…。」

確かに食べてた。パンは5つに分けられるから4兄妹の俺達は残りのひとつを良く争ったのも覚えてる。

み「じゃあ そのちぎりパンください！私達も5人バンドだからちようどいいね！」

直「ああそれにしようか、ちぎりパンをお願いします。」

沙「はい、ありがとうございます！少しおまけしときますね！」ガサガサ

あ「沙綾ちゃん ありがとうございます！」

翔「コクツ」

美「わざわざごめんなさいね。後でみんなで頂くわね。」ガチャ カランカラン

沙「ありがとうございます！またお越しく下さい！」

こんなに疲れるとは思わなかった。

ロケ終了後

俺達は久しぶりに4人で歩いて帰ることにした。（直人はバラエティーの撮影があるため車で離脱）

翔「久しぶりだな。こうやって4人で移動なんてしたことないん

じゃないか？」

あ「確かにね〜 私はよく翔という美月さんはみくるさんとよくいますもんね。」

美「そうね。私とみくるは仕事が共通だからその事を話したり現場一緒だったりでよくいるわね。」

み「そうだよね〜あつあつその公園でさつきもらったパン食べようよ！」

美「みくる。 私達がここにいるのが通行する人にバレたら大変なことに『大丈夫だつて〜ちゃんと変装してるんだからバレないって！』分かったわよ。ただし1人にでもバレたら即事務所に戻るわよ。いい？」

み あ 翔「分かった（わかりました。）」

美「よろしい。なら行きましょ♪*。」

翔「俺飲み物買ってくるわ！」タツタツ

あ「あつ私も行く！ 待って〜」タツタツ

美「本当にあの二人仲良しよね。」

み「ほんとほんと カップルです！ つて言われても多分分らないよね。」

美「本当は翔にも学校に行つて『すみません』ん？」

声のする方を見てみるとそこには可愛いお下げをしてランドセルをしょった女の子がいた。

？「あつあの神崎美月ちゃんと夏樹みくるちゃんですよね？」

美「ええ そうよ」

み「なになに私達のこと知つててくれるの？お姉さん嬉しなあ〜」

？「うわあく本物だ!!」キャキャ

美「えつとあなたお名前は？」

？「はっ！失礼しました！私 山吹沙南と言います。お二人のことはいつもモデル雑誌で見させてもらってます！」

み「山吹つて沙南ちゃんもしかして商店街にある山吹ベーカリーつて沙南ちゃんのお家？」

沙南「はい！山吹ベーカリーを知つててくれたんですか？ありがと

うございます！」

美「ええ先程テレビの撮影でお邪魔させてもらったのよ。あなたのお姉さんにもあったわよ。」

沙南「そうなんですわね！あと、あのお家にお兄ちゃんは居ましたでしょうか？」

み「お兄ちゃんって確か えっと……。純君だっけ？」

沙南「あつ純兄じゃなくて透也お兄ちゃんの方なんです……」

み美「えっ……。」

沙南「お母さんに透也お兄ちゃんは長い旅行に出てるからしばらく帰って来ないって言われててもしかしたら今日は！と思ってたんですけどどやっぱり居ないですよね……」

み「そ、そうなんだ……。沙南ちゃんは透也お兄ちゃんのこと好きなの？」

沙南「はい！大好きです！お家にいた頃は良く遊んでくれましたし、ギターを弾いてくれたり、一緒におやつも作ってくれたとても優しいお兄ちゃんです！」

美「そう……。優しいお兄ちゃんなのね。早くお兄さんが帰って来るといいわね。」

沙南「ありがとうございます！あつもうこんな時間！私お家のお手伝いをしないといけないので失礼しますね！美月ちゃんとみくるちゃんに会えて嬉しいかったです！」タツタツ

そう言って沙南ちゃんは走って行ってしまった。

み「行っちゃたね……。美月どうしょ……。」

美「そうね、とりあえずみんなが来たら事務所に戻りましょうか。声を掛けられちゃったしここに居るのは翔にとって危ないかもしれないから。」

み「う、うんそうだね。あつ翔達が戻って来たよ。」

翔「お待たせく んっ？どうしたなんか暗い顔しちゃって？」

美「話は移動しながらにしましょ。」

あ「えつまさか今の短時間に声を掛けられちゃったんですか？」

み「うん掛けられちゃったんだよね。」

話ながら公園でて、事務所に向かった。

美「翔」

翔「なっなに？なんかマジな顔になってるけど…」

美「さつき私達声を掛けられたって言ったわよね。実はねその声を掛けてくれたの沙南ちゃんだったの。」

翔「さっ 沙南？」

美「ええ あなたに会いたいわって言ってたわ。」

み「さらに大好きとも行ってたね！」

翔「沙南や純には会いたいわって思うけど、もう会えないからな…今となつては赤の他人だし…。」

あ「翔…。」

翔「お前らが暗い顔すんなって、ほら早く戻ってバンドの練習でもやろうぜ！」

美「そうね行きましょう。」

5話

山吹家

沙南「だだいまーお母さん！」カランカラン

山吹母「あら、おかえりなさい。沙南遅かったわね、大丈夫だった？」

沙南「うん！実はね帰って来る途中に公園でね！美月ちゃんとみるちゃんに会ったんだ！そんでね！さらにお話も少ししちやたんだよ！」

山吹母「よかったわね。お母さんご飯の用意してくるわね。」

お母さんと入れ違いに奥からお姉ちゃんが出てきた。

沙「あつおかえり沙南。なんかいい事でもあつた？凄いい笑顔だよ。」

沙南「お姉ちゃん聞いて聞いて！あのね！今日帰って来る途中にね！透もお兄ちゃんに似てる人が公園に入ってくのを見てね！もしかしたら行って行ってみたらいなくなつて、でもね！ベンチにみるちゃんと美月ちゃんがいてね！少しだけどおしやべりしちやつたんだ！」

沙「えっ……。沙南透也見たの！どこの公園にいたの!？」

お姉ちゃんが激しく動揺してるのがわかる。

沙南「お姉ちゃん多分私の見間違いだよ。だつて透もお兄ちゃんは旅行に行ってるからこころに辺にいるわけないじゃん。」

沙「そつ、そうだよ。ごめんね。ほら手を洗ってきてね。」

沙南「はい。しつかりと手洗いうがいをしてきまーす！」ドタバタ

沙「こら沙南廊下を走らないの！」

ライブ前日

最後の練習のために専用スタジオで練習していた。

み「はあく疲れた！休憩しようよー」

あ「お疲れ様です。さすがに通しを連続でやるのはきついんじゃないですか？」

直「そうだな。休憩を挟んで後は軽く各々苦手なところをみんなに合わせて終わりにしようか。前日にいつも通りの練習をするのは良くないからな。」

み「りよ〜かい。とりあえず休憩はいりま〜す。」

12分後…

コンコン

あ「はーい どうぞー」

ガチャ 彩「こんにちわ！練習中失礼します！」

美「あら、彩ちゃんどうしたの？」

彩「あの、明日SPIRITのライブがあるって聞いて、私明日お休みなのでバンド活動の見学をしたいって思ったんだけど、明日SPIRITの皆さんについて行ってもいいですか？」

み「いいじゃん！私は彩ちゃんがいてもいいと思うよ！」

翔「確かにな。彩ももうすぐデビューするだっけか？俺達の活動で良ければ見学してくれていいと俺も思う。」

あ「直人どう？ダメ？」

直「先輩からのお断りを断るわけないじゃないですか。」

彩「うう〜みんなありがとう〜」ウルウル

み「もう！彩ちゃんはほんとすぐ泣いちゃんだから」ナデナデ

美「さて！休憩も終わりにして、最後の調整をしましょうか。彩ちゃんあなたはどうするのかしら？」

彩「あつ 私はこの後打ち合わせがあるので失礼します。明日はよろしく願います！」

み「また明日ね！彩ちゃん！」

そんな感じの前日でした。

6話

ライブ当日楽屋で

翔「おっ始まったな。」

あ「だねー今はpoppin partyってバンドらしいよ。見に行く?」

翔「いやいいや、それより気になるのはさっきいたあのピンクのクマがいるバンドが気になるかな。」

み「翔しらないの?あれはミッシェルって言っつてハロハピちゃん達のDJなんだよ!」

美「みくる詳しいわね?」

み「たまに路上ライブしてるのを見てたからね!あのバンドはとっても個性があっつておもしろいよ!」

翔「後で見えるか。」

あ「てか、今日のライブほんとに私も歌うの?みくるさんと美月さんだけじゃないの?」

直「まだ言ってるのか?あの時決めただろ?大丈夫だよ。落ち着いていけよ。」

美「そう言っつていつも本番でセットリストを変更してるのはどこの誰なのやら。」

み「うんうん確かにね!私達の場合セトリを考えてもだいたい変更するよね」

直「いいじゃん!お客さんも喜んでくれるように俺だっつてしっかり考え『コンコン』ん?はい?」

スタッフ「SPIRITの皆さん次が出番なので準備されたら舞台裏にお願ひします!」

美「わかりました。」

み「あー久しぶりだから緊張する」

直「じゃあ忘れ物のないように移動しますか。」

舞台裏

み「ほんとに本番前なんだなっつて思うよね。」

美「そうね。あら？今演奏しているバンドなかなかいい感じね。」

あ「美月さんもそう思いますか!?なんか王道ガールズロックって感じで盛り上がりますよね!歌からも仲の良さも伝わってきますし!これは穏やかじゃない!」

美「あおい落ち着いて。確かに演奏に関しては気になる点は聴いてる限りだといくつかあるわね。けどバンドの基本 仲間を信頼することに關しては完璧じゃないかしら。」

翔「この感じだとpoppin partyの演奏も聴いておくべきだったかもしれないな。」

み「あつ演奏終わったみたいだよ。」

Afterglowのメンバーが舞台袖に戻ってきた

直「お疲れ様です。とてもいい演奏でしたよ。」

蘭「えっ、あつありがとうございます。」

ひ「あー!! つぐ!見てよ!本当にSPIRITのメンバーの方々がいるよ!」

つ「ひまりちゃん分かったけど舞台袖だから静かにね。」

巴「そうだぞひまり。それにSPIRITは次なんだからあまり話てるのも良くないからなくぞ。」

モ「なので盛り上がってるひーちゃんを置いて戻りましょー」

ひ「あくみんな待つてよく」タツタツ

美「彼女達も面白いわね。」

直「さっ出番だ!行くぞ!」スタスタ

ついに舞台に立つ時がきた。

直「皆さんこんにちは!SPIRITです!」

キヤー!!

本物だ!!

直「ではここでメンバー紹介しまーす!」
イエーイ!

直「まずはベース 夏樹みくる!」

みくるちゃーん!!

こっちみて!!

少しベースを披露してから

み「今日は来てくれてありがとう！みくるのミラクルでみんなに忘れられない思い出をプレゼントするよ！」

イエーイ!!

直「続いてキーボード 霧矢あおい！」

あおいちゃん!!

穏やかじゃない!!

少しキーボードを披露してから

あ「遂に始まったね！私達今日のためにたくさん練習してきました！一生懸命演奏するから楽しんでいってね！」

イエーイ!!!

あ「この歓声穏やかじゃない!!」

直「続いてギター 神崎美月と黒川翔だ！」

キヤーー!!

美月様ー!!

翔君ー!!

ギターを少し披露してから

美「みんな楽しんでる?！」

イエーイ!!!

美「今日は来てくれ本当にありがとう！最後まで全力で楽しんでね!!翔もそう思ってるわよね?！」

翔「コクッ」

美しいー!!

翔君クール!!

み「最後はドラム！涼川 直人！」

リーダー!!

カッコイイ!!

ドラムを少し長く披露してから

直「CiRCLE合同ライブへようこそ！今日はみんなにいいお知らせがあるんだ！」

えー！

なになに？

直「最後に披露する楽曲はまだ未発表の新曲だ！みんな最後までついて来いよ！！！！」

おおー！！

ついて行くー！！！！

美「それじゃ1曲め聴いてください。『大人モード』」

キヤーー！

『．．*:*.*．．．．．*:*.*．．．』

美月とみくるがデュエットで歌い出してライブが始まった。

7話

客席

香「うわ〜始まる前から凄い人気だね!」

有「そりやそうだろ。人気モデルの2人がいてイケメンのドラマーがいて今人気急上昇中の女優がいてさらに滅多に喋らずギターの腕が上手いってゆうやばい人しかいないバンドなんだからな!」

り「確かに凄いよね。私もよくお姉ちゃん和美月ちゃんとみくるちゃんのファッション雑誌みてるよ。」

お「そういえば沙綾?どうして突然SPIRITのライブを客席側からみたいなんて言ったの?」

沙「えつと。。。やっぱりさ!凄いバンドの演奏はお客さんとしてみたいじゃん!」

香「うんうん やっぱりライブを見る時は客席から見た方が迫力あるもんね〜」

直「皆さんこんにちわ!SPIRITです!」

有「ほら始まるみたいだぞ。」

『・*:.*.・.♪』

ウオー!!

パチパチパチ

直「へへっみんな乗りすぎだぜ!本当に感動はこれからだ!」

あおいがキーボードを持ってセンターに出てきた。

あ「次の曲いきます!聴いてください!l u c k y t r a i n
!」

ウワアー!!

これもなんの問題もなく成功した。

美「残念だけど次が最後の曲になりました。」

ええー!

み「だけど次は最初に言ったとおり未発表の新曲だよ!」

美「聴いてください。私とみくるで

お「沙綾まさか本当に好きだったの？」

有「これはこれは」

沙「ん、モー!!その話はいいってばー」

有「わりいわりいさて、じゃあ私たちは先に戻ってるからまた後でな。」

沙「うん。また後でね！」

演奏終了

直「以上！SPIRITでした！」

み「またね〜」

美「フリフリ」

あ「これかもSPIRITをよろしくね〜」

ワアー〜

そしてステージを後にした。

8話

楽屋

翔「あー疲れたー」

み「うんうん久しぶりだったけどいい演奏ができたね！」

美「これでバンド活動はまたしばらくおやすみね。」

直「まあ個人の仕事も有難いことに貰えてるからそちらも頑張りましょうか。」

み「そうだね！」

少し離れた所で

あ「しよ、翔あのね…。」

翔「ん？後で聞いわ。とりあえずトイレ行ってくる。」ガチャ

あ「あつ…。」

通路を歩いていくと後ろから

？「あつあのー」

翔「うん？」

俺は振り返った。そこには姉がいた。

沙「やっぱり透也だよな？今までどこに…。」

翔「うつ…。」

だめだ…。

沙「私ね、透也に言わないといけないことがあるの。」
やめてくれ…。

沙「あの時は本当に」

聞きたくない…。

沙「ごめんなさい！」

姉は深く頭をさげてきた。だけど…。

頭が真っ白になって何も言葉が出てこない。

俺も謝らなければいけない。

けど俺は逃げた走ってC i R C L Eから飛び出した。

沙「待って!!」

姉が追いかけてくる

元々運動は得意ではないので追いつかれるかもしれない。けど走った。

すると

沙「きやつ！」

姉が転んだ。俺は足を止めて振り返った。その転んだ場所が良くなかった。

翔「マジかよ！」ダツ

道路の真ん中で転びトラックから走って来ているのが見えた。その瞬間に姉に向かって走った。

間一髪の所で姉を引っ張りお互いに轢かれずに済んだ。やはり俺は甘いな。

しかし慌てて助けたものの言葉が出ない。

沙「あ、ありがとう……。」

翔「別に……。」

沙「あ、あのさ透也、私納得してないからね。家を出ていった事。」

翔「っ……。」

沙「だからね。透也の口からしっかりと話して私だけじゃなくてお父さんとお母さんともね。そして納得させて。お願い。」

翔「分かった。今度向かうよ。」

沙「ならL I O N交換しよ。透也の都合がいい時で大丈夫だからね。」

翔「とりあえず戻ろうか。沙綾。」

沙「あれ？前みたいにお姉ちゃんって呼んでくれないの？」

翔「いやもう家族じゃないからな。それに恥ずかしい。」

たわいもない話ができる。それがこんなに幸せな気持ちになれるとは思わなかった。

あ「もう！どこいったのよ！」

翔「悪い悪い。ちよつとトイレにな、」

あ「またそんなこと言つて！」

み「まあいいじゃんそれよりも早く事務所に戻ろうよ！」

翔「ん？今日はもう解散じゃないの？」

美「さつき社長から電話があつて1回戻つて来て欲しいって連絡があつたのよ。」

直「珍しいよな。ライブ後に戻つて来て欲しいなんてなんか急な用でもあるのかな？とりあえず戻るか。」

み「あくあ 早く帰つてお風呂入りたいよ。」

あ「ほんとですよね。なんでわざわざライブ後なんでしょうかね？」

直「だから早く戻るぞつて。」

み「はい」